

引き続き、市政一般質問を行います。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 皆様こんにちは。16番、対政会の大浦孝司でございます。

先ほど、神宮議員が登壇されまして、私、残り30分を期待して書類を整備しようと思つたら、30分繰り上がったものですから、これは大きなことになったなと思っております。不十分ですが、出来たその中で本日の一般質問を進めてみたい、かように思っております。

今回、私はこういう質問を初めてやるわけですが、一つは上対馬町茂木地区、この砂浜がある集落ですが、ここにウミガメ、アオウミガメがこの砂浜に産卵に来ておつたと、昔から。ところが、この海水浴場の環境が変わったため、ウミガメの産卵がなくなったというふうな話を聞いたことがあります。今年の2月ぐらいのことだったと思います。

それともう一つです。産卵はできないようになった理由もお聞きしました。海水浴場の階段工が砂浜に約8メートルほど埋まっております。そうしますと、その階段工が原因ではなかろうかというふうなことを聞きました。

それともう一つは、それでもウミガメがこの近海に泳いで見かけるというふうなことをお聞きしまして、複数の方が、そうであるというようなことを言っておられました。

本日は、その海水浴場の階段工、いつ頃この工事が始まって、今にあるか。ここらを上対馬振興部の阿比留部長に、ひとつ遡って調査をしていただけんדרoughかと電話したところ、1回目のお返事は平成20年に海水浴場の工事の完成の資料がございましたと。これは対馬振興局のほうでしょうけどもね、その資料の。ところが地元の方々、琴の方々の話では、「俺は23年前に本土に働いておつたが、帰って来た時点ではもうその施設はあつたよ」というふうなことで、つじつまが合わなかつたんです、1回目。

さらに調査の内容を上対馬振興部の阿比留様に骨を折っていただき調査していただいたところ、次のようなことが判明しております。

ちょっと読み上げます。本年2月頃、上対馬町茂木浜では、以前よりアオウミガメが産卵していたが、海水浴場のコンクリートの階段工が新設されたその頃から産卵はなくなった。しかし、茂木浜の近海では最近までウミガメが泳いでいる姿を見受けられることがしばしばあり、これを何とかならないだろうかと思う心のやさしい方もおられることから、過去にどのようなことがあつたのか、私なりに上対馬振興部長の資料の基に調査をしたというふうなことに形はなっております。

この砂浜は、海水浴場である一方、年間を通し島内外から少数ではありますが、サーフィンを楽しむ若者が集まっているようであります。

話題となっているコンクリートの階段工について、調査した結果は次のとおりであります。

昭和62年の九州北部を襲った大型台風により、茂木浜の砂は大波により、おかに打ち上げら

れ、海岸線は大きく崩れ大被害を被ったことになったのであります。

翌年、昭和63年に長崎県により茂木海岸災害復旧工事が着手され、平成元年6月に工事は完了したとなっております。その際に造られた構造物が現在の姿となっております。

陸上部より幅3.5メートルのコンクリート上部工、それより砂浜方向に23センチ直下がり、40センチレベル、この階段工が18から19段つながって、約8メートルのそういう断面になっております。なお、復旧延長は250メートルの長さとなっております。

したがって、ウミガメが産卵に来なくなった期間は平成元年より現在までの間、約30年を超えることとなります。

その後、茂木地区の開発は進み、平成12年から平成19年の間において市道改良、延長約2キロ、幅員5.5メートル、トンネル工事200メートル、琴の臨港道路より新規ルートが開発され、海水浴場のシャワー室、トイレ、海の家等が整備されたというふうになっております。

これが、今まで海水浴場がどのような形としてなったのか、造られたか、簡単に言えば災害復旧の事業の名目で地元、上対馬町じゃなくて長崎県、いわゆるその頃は対馬支庁、ここが事業の主体となって全ての負担をしてやったと。こういうふうなことに資料の内容はなっております。

残されたウミガメの産卵対策について何かございましたら、後に市長との対談、意見を賜りたいと思います。そのときはよろしく申し上げます。

それから、最後であります、高浜漁港、これは中高浜地区、ここの船をつなぐ係船岸壁に、これは物揚げ場というふうな名称ともなりますが、これがやがて60年の竣工から現在に至っております。当地区は雞知川の河口付近に面しているため、大雨洪水による大量の砂、礫が体積し、4年から5年の間に1回は大型重機等によりこれを除去する作業が行われているところであります。

最近、同地区内の家屋の玄関の戸、または部屋の窓等の開閉がスムーズにできないなどの苦情もたくさんでているようでございます。被害が出ている件数は10件前後と思いますが、対馬市は、まずこの実態を十分調査され、この原因の究明、その対応について早急に、私は着手してほしい、また地元の方もそういうふうにしてほしい、このような願いを持っております。市長の答弁について伺いたいと存じます。

以上が、本日の一般質問の内容でございますが、比田勝市長、よろしく申し上げます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 大浦議員の質問にお答えいたします。

説明は通告の順番で、先に高浜漁港の中高浜ですか、こちらのほうから説明をさせていただきたいと思っております。

この高浜漁港、中高浜の係船岸壁の強化についてでございますが、高浜漁港は対馬市の中央部

東側に位置し、豊富な水産資源に恵まれた対馬市管理の第一種漁港であります。昭和27年に漁港指定を受けて以降、各種の漁港施設を整備することで、漁民の所得向上及び生活環境の安定を図り、地域経済の活性化に寄与してきたものでございます。

施設の維持管理におきましては、漁港施設の状況を把握するため、地元要望に加えて、毎年、出水期の前などに点検を実施しているところでございます。

今回ご質問の中高浜地区の係船施設は、昭和40年から41年にかけて全長121メートルの物揚げ場として整備され、50年以上が経過した施設でございます。

簡易調査にはなりますが、平成24年度に施設の機能診断を行っており、上部工とエプロンの間に沈下と目地の開きや幾つかのひび割れ等が見られましたが、水中部の潜水調査も行った結果、調査時点での吸い出し等は確認されておらず、施設機能に支障を来すまで変状はなかったため、定期的な観察を継続しているところでございます。

係留施設前の水域施設であります。泊地のしゅんせつにつきましても、堆積土の影響で船舶の出入港時にプロペラや、かじが破損するなど漁業経営に支障が出ているため、しゅんせつしてほしいとの高浜地区からの強い要望もあり、しゅんせつを実施しております。

また、この泊地は二級河川雞知川の河口付近に位置することから、川の流れを阻害する恐れのある堆積物の状況を点検し、泊地機能や河川の流下機能が確保できるよう、適正な維持管理に努めているところでございます。

本地区の施設は背後に家屋等が近接しており、強化工事施工が周辺の住宅等へ悪影響を及ぼすことも危惧されることから、慎重な対策が必要と考えられます。

今後も目地の開きやひび割れ、沈下などの変状に着目した施設管理を継続し、施設の機能低下や異常が確認された段階で、機能診断の実施及び対策工法等の検討を行わなければならないと考えており、今後とも市民の安全・安心を確保するため、施設の適切な維持管理に努めてまいります。

次に、このウミガメの産卵について質問を受けております。

議員おっしゃられるように、茂木浜海水浴場の護岸整備を契機にウミガメの産卵がなくなったため、学者等の専門的な意見も取り入れ、善処する考えはないかという御質問の内容でございますけれども、日本では5種類のウミガメが見られ、そのうち、アオウミガメ、アカウミガメ、タイマイの3種類が日本の砂浜で産卵すると言われております。ウミガメは全種が国際希少野生動物種に指定され、商業取引を禁止するワシントン条約で保護されているところでございます。

対馬の海域をウミガメが回遊しているのは承知しておりますけれども、産卵場所としまして、アカウミガメは福島県から沖縄県まで。またアオウミガメは小笠原諸島から南西諸島にかけ広範囲で確認されております。

しかしながら、環境省によりますと、現在は茂木浜を含めた対馬でのウミガメの上陸や産卵は確認されていないとのことでした。環境省におきましては、国内希少種に指定されていないウミガメの保護活動を行う予定はなく、対馬市におきましても、ツシマヤマネコやツシマウラボシシジミなどのように、対馬市の希少種や固有種ではないウミガメを直接的に保護することは困難でございます。

また、この茂木浜の階段式護岸は昭和62年度の海岸災害復旧工事事業により、翌年度の昭和63年度に施工整備されたものでありまして、現状を変更することはできませんけれども、今後、産卵のため上陸するようなことが確認され、観光資源としての利活用の可能性が出てきた場合は、検討してまいりたいと考えておりますし、このウミガメの産卵等につきましては、私自身、もう少し詳細な調査等が必要ではないかというふうに考えているところでございます。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 高浜漁港のほうから入りたいと思います。

先ほど、係船基盤の崩壊のここをチェックされて、ほとんど問題なかったというふうなこと行ったのは何年度の何月の話でしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 平成24年度に業者委託による簡易調査、潜水調査を実施している状況でございます。

それとまた、機能保全計画を策定するためとして、平成27年に業者委託によりまして、深淺測量の結果、所定の水深が確保されていない箇所があったというような報告がっております。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 今の言葉でいけば、27年度が最後のチェックであったと、かようなことだと思われま。かれこれ6年ぐらいたったということですね。その中で私は、昨日もあそこに3回ほど行って、要は係船、要は海に船をつなぐ岸壁を大きな、要はコンクリートの塊を下に基礎石を打った中でつないでいったと思いますが、工法は、そのラインが斜めに傾いていますよ。行ったらよく分かります。そして、側溝たるもののひび割れ、家屋のほうのブロック等、これまでひびが入った箇所が相当ありました。一番甚だしいのは、戸も全く開かない家、全体が駄目になったということで、家を解体した事例が1件あります。そこはロープを張って、入り口がちょうどホテルに行く方向から見たら、途中、左側に海岸の船着場が見えますよ。その方向にずっと五、六十メートル以上行けば、そのラインが一番ひどい場所だというふうに確認はしております。

今の資料に基づくのが27年でありましようが、6年の歳月がたった中で、かなり船が泥を取

るたびにおかしくなっていくということは地元の方が言っておられましたので、私も作り話はされませんから、その辺を、最近の状況を住民の皆さんに——熱心な方もございます。そして、かなり被害を被った方は「ここを見てくれ」というふうなことを言われますよ。そうしたら、これはひでえなあ。この大きなコンクリートの塊をどういうふうに変更できるのか。非常に私たちの角度からは困難なことが実際どうできるのかなというふうな心配をしております。ちょっと今のことは、市長、報告された担当部署の27年度の様子をそのまま書いておられまじょうが、現状の中での確認というのをもう一遍、関係者がおる中で、ここがこうなっておりますということを、じかに指さされて見た場合には、全くそういうふうな報告では済まされんようなことに現場はなっておった覚えがございますので、ここでやり取りするんじゃなくて、再度、そういう傷んだ場所の確認を担当部署、そして関わった方、そういう被害と申しますか、あまり土地基盤がこうなりよるわけですから、そういうふうなことが現に起こっております。

ちょっとその辺を今の報告からいろいろ思いもありませんが、再度チェックをしていただきたい。かようなこととお話を進めたいんですが、ちょっと意見を下さい。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） ここが先ほどもちょっと答弁の中でも申し上げましたけれども、物揚げ場のほうは、確かにこれは市営の漁港でありますので、対馬市のほう、旧美津島町が施工はしております。ただし、雞知川の右岸の部分、議員がおっしゃられるブロック積みが傾いているよと。そして、途中、中央付近が抜けたようになっていきます。これは県営の河川護岸になっているんですね。二級河川の河川護岸になっております。それで、県のほうが平成2年にボーリング調査を行っているらしいです。その後、この工事等をするにつきまして、どのような工法にするかということは今現在、まだ慎重に検討をしているというようなことでございます。

それもあわせて、今後、地域のほうへの説明をということであれば、幾らでも説明には協力はいたしますけれども、ただ、ここは雞知川の下流部になりますので、大雨の後々にはどうしても土砂が堆積をして、マイナスの1.5メートル泊地になっております、ここの物揚げ場の前面は。ですから、本来は干潮面より1.5メートルの水深を確保しなくちゃならないんですけど、どうしても大雨が降った後々にはどうしても土砂が堆積をして、今度は水深が浅くなるということで、漁船がスクルーが当たったり、かじが当たったりするということで、地域のほうからしゅんせつを要望されるようになります。

そういうことで、市といたしましても、できる限り、あまりしゅんせつの場合は余掘りと申しまして、普通50センチから80センチでしたか、少し深く掘るんですけど、あまり深く掘り過ぎますと、また背後の家屋に影響を与えてはいけないということで、物揚げ場のすぐ前面付近は慎重なしゅんせつの工事をしているということでございます。

今の現状はそういう状況でございますので、高浜地区のほうからその辺の現状の調査、そして、また、説明が必要ということであれば、建設部のほうを通して調査・説明には行かせたいというふうに思います。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 河川護岸、そして、本来の係船のコンクリートブロックの何と
いいますかね、このライン両方、私もここの管理は川やな、係船護岸は本来の漁港の範囲だなど
いうこと、今おっしゃったように両方入っていることは私もそうだろうと思います。一番心配な
のは、ちょうど草葉商店さんの前辺りが最大におかしくなっておりますよ。だから、その辺を中
心に係船護岸のチェックはしてほしいというふうなことを担当のほうには伝えてほしいと思いま
す。

今のことは、いずれにしろ、最近の実態を十分に把握されて、そして、27年度以降の傷みが
確認できれば、また青写真をつくられて、どういうふうにそれを修正していくか、このこと
について、ひとつ住民側の説明についてはよろしく願いいたしまして、この件は終わらせてい
ただきます。

ウミガメの件ですが、先ほどの市長の報告のとおり、答弁のとおり、この護岸は平成元年に完
成したということで、災害復旧適用法ですかね、これを茂木浜の砂を収めるということで、要は
災害復旧の施設をつくったんだよと。ところが、一般的に階段工をつくるというのは海水浴場じ
ゃないかという気もして、それはちょっと私は分かりにくいというんですかね、あるんですが、
しかし、その工事費を使うとる以上は簡単にいじることはできない、かように私は思います。で
すから、ここで市長、私はこの一般質問の通告を出した後に、琴の皆様、区長さんの話をちょっ
とお聞きしたんですが、実はウミガメのことも県は知っておったんだよと。それで、本当はウミ
ガメは中央部に卵を産みよったと。ちょうど真ん中ら辺の奥に。砂浜のですよ。おおむね南のほ
うになるほうから始まって、そのまま防波堤みたいな格好で岸壁をつくったと。250メートル。
その残りの250メートルの先は、50メートルぐらいの範囲なんです、30年前と同じ状態
で手をつけておらないと。ここでウミガメの産卵ができんかという思いがあったような話
をされましたよ。そして、それはいい話だなと私は思ったんですが、○○○○○○○○○○○○
○○
○○
○○
今日のお話は、実はその50メートルの残りの場所にウ
ミガメが産卵できる環境を戻してやる必要がないだろうかというのが今日の話なんです。

これ、ウミガメの研究所みたいのが沖縄にございまして、亀田という、名前も亀ですが、亀田
様から資料をいただきました。その中に、海から砂浜を歩いてきて亀が卵を産む際に、砂を掘る
ときに石があればもうやめるそうです。石ころが。それほど砂浜に卵を産むというふうなことに

障害物があったら、そこには絶対産まないと、こう書いています。60センチぐらいの深さに掘って約100個を産んで、それが2か月したら子供は海にさっと出ていくと、こう書いています。

こちらで私は、あそこの中の地元の皆様と市が一つの仲介役として、そこの浜の整備をボランティアでもいいからやっていくのもいいんじゃないかなと思うんです。そして、大きなごみや石を取り払って、砂を少し1メートルに近い状態で石が出てこんど、何も、木も出てこんどという範囲をあそこでつくってやれば、ひょっとしたらまた復活せんだらうかという期待を持ってやるのが一つの最後の今の現状の中での取組だと、かように心の中では思っております。そのことについて、市長、何かございましたら御意見ください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） まず、この海岸災害復旧工事の経過でございますけれども、ここは議員御承知のとおり、もともと立派な白砂青松の砂浜でございました。その砂浜は背後に本当に松林があったんですけれども、大きな台風の後にはその松林まで削られるような激しい海岸浸食がずっと続いておまして、それを防ぐために、県のほうが海岸浸食防止のために災害復旧工事で採択をしていただいて、工事をしていただいたと思っております。その際、あくまで前面が海水浴場となっておりますので、構造的には海にタッチしやすいようにということで階段状にされたものというふうに私は理解をしております。

それと、今度はウミガメの産卵につきましては、私も以前、上対馬役場にいた頃に、茂木浜にはウミガメが産卵をしているというような話は聞いておりました。そういう中で、今、議員がおっしゃられるように、今の現状で海のほうから茂木浜を見たときに、右側は川が流れている沢、左側も小さい沢が来ている浜で、どちらとも50メートルほどは階段式の構造物は築造されていないということでもあります。私もそこは写真を見て確認しているんですけども、私自身もできたらここに亀が上がってきて産卵を、実際にもう既にしているのではないかと。そこら辺も先ほど申しましたように調査ができれば調査もしたいとは思っておりますし、もしそこが議員おっしゃられるように下に石などが埋まっておって、亀の産卵に適切でないとなれば、そこにまた吹き上げられた堆積した砂をそちらのほうに運んで、その堆積の厚さを、砂浜の厚さを少し厚くすれば、ウミガメも産卵に上がってくるのではないかと期待もされますので、そのことにつきましては、今後、ボランティア活動も含めて、いろんな面で市といたしましても協力できるところは協力もしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私も地元の方から、過去の大きな災害、台風による砂の移動、それが住居のほうまで攻めてくるような話をされて、護岸に当たってもらったら困るという厳し

